

## 2018年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2018年5月23日（水） 10時00分～ 場所：ベルサール八重洲（東京都中央区）

出席者：代表取締役社長 根本弘、常務取締役 大上誠一郎、取締役 栢森啓、取締役 大成俊文

### Q1

情報システム事業の6月に販売された新型CRユニットの販売台数が伸び悩んだ状況ですが、これは単純に設備投資の先送りによる影響なのでしょうか。市場に投入した手ごたえ・感触を教えてください。

### A1

①CRユニットの基本的な用途は玉・メダル貸し機ですので、新装・大規模改装という大型の工事案件が無いとなかなか導入が難しい製品です。昨年度はこういった大型工事案件が少なかった影響もあり、CRユニットの導入件数は伸び悩みました。ただ、新製品のVEGASIAⅢは各台にカメラを付けるなど新たな分析用端末として活用できますので、導入ホールからの評価は非常に高いと認識しております。

②パチンコホールでのCRユニットの入替は工事面において島設備等の付帯工事も多く、工期が非常に長くなるため、呼出ランプ等の情報公開機器の入替に比べてホールへの負荷が高くなります。2018年3月期は、新店の減少プラスホールへの負荷の高さから導入軒数的には前年度並みとなりました。

VEGASIAⅢは、顔認証カメラを標準搭載しており、それが「CⅡFACE」という分析サービスにつながります。これは他社にない無二のシステムで、遊技機の稼動の中身を可視化できるということで、非常に高い市場評価をいただいております。今期はファン動向の分析を主としたセミナーも開催しておりますので、もう少し売上貢献できると想定しております。

### Q2

市場環境についてですが、「そろそろ市場が動けば」という話がありました。今後の市場環境についての見通しと、その見通しを今期の業績にどのように反映しているのかをご説明いただきたい。

### A2

①市場環境ですが、規則改正が今年2月1日に施行されましたが、各遊技機メーカーはそれ以前に認可された遊技台を主に販売している状況にあります。しかしながら、ホール関係者が懸念しているのはその先にあるパチスロ6号機、設定付きのパチンコ遊技機がどのようにファンに受け入れられるのかということだと思います。

現状パチンコホールに設置している規則改正前の遊技機は認定が切れるまで使える状況が続きます。2月1日より前に認定された遊技機は3年間使える訳です。出玉性能が高い遊技機が市場にある中で、新店を作るとそういった遊技機が、チェーン店間移動はある程度できますが、ほぼ導入できない環境となりますので、新店を作っても既存のお店に対抗できるのかということが懸念されます。新規機が市場に出まわり、ホールの収益にある程度目処が付くと実感した時に市場が動き出すと思われます。

②2020年2月以降は全ての設置台が規則改正に適合した遊技機となり、旧規則機が全て市場から無くなります。2020年1月末までの約19ヶ月の間に販売される新規則機は、出玉性能は2/3程度に落ちますが、遊技性能が上がることでファンの遊技の幅が広がります。そういう遊技機がファンに受け入れられるかどうかで2020年以降の市場が上向いていくかどうかという判断になると思います。

Q3

カジノ法案がかなり注目を浴びていますが、これが動き始めると御社にとってどんな形で業績に影響があるのかご説明ください。

A3

カジノ法案が通る中で、依存症対策や、カジノを作るならどこにどのような形で作って、どういう方がお客様になるのかということがこれからどんどん見えてくると思います。本当は統合型リゾートの中の一部なのですが、どうしてもカジノだけクローズアップされているということがあり、色々とパチンコと比較されて喧々諤々と世間では騒がれていますが、基本的にパチンコは大衆娯楽であり、カジノのお客様とは客層が違いますので、直接的な影響があるかという私は無いと考えております。個人的な見解ですが、パチンコは1玉4円で貸出し、1分間に100発を上限としておりますので使う金額の上限値が自ずと決められてしましますが、カジノは使う金額の上限値が個人の裁量で変わりますので、ギャンブルという定義になると解釈しています。

今後パチンコ業界は、パチンコは大衆娯楽であるということ、アピールの方法を模索していかなくてはならないと考えております。業界における社会貢献活動や、産業としての経済効果を業界全体でアピールしつつ、大衆娯楽としてのパチンコのあり方を模索し、娯楽として社会にとって必要だと認識を持ってもらうことが重要となります。

私共はパチンコ業界は無くなる業界とは思っておりません。カジノと平行して盛り上げていければ住み分けはキッチリできると考えております。

Q4

ゲーム性が広がったという6号機についてですが、具体的にどのような魅力のある台に変わるのかについて詳しく教えてください。中身のイメージがもしありましたらご説明をお願いします。

また、新規則機の認可・適合の時期が気になりますが、実際いつ頃認可が出て、市場に出てくる可能性が高いと見ていますか。

A4

①6号機の保通協の適合状況につきましては、他社と同じくらいの情報しかないので想像の域を超えませんが、正直なところ6号機のゲーム性を作ることはできると思いますが、それが本当に適合試験に通るかという点で探り合いが続いている状況と思われます。

②6号機は何社か試験に持ち込んでいるようですが、まだ1機種も適合が出ていないようです(5月23日時点)。主に短時間で何枚出るかというところで全部試験に落ちている状況と聞き及んでいます。スロットはダラダラ感が一番良くないということで、もう少し出玉に瞬発力があり、短時間遊技ができる仕様にしたというのがおそらくメーカーの狙いだと思います。

年末までに揃うかどうかというのは、我々も分かりません。いろいろ持ち込んで、少しずつチャレンジしながらというような動きになっていくと思われます。

Q5

御社でのパチスロの今後の開発において6号機についてはどのようなスタンスでしょうか。

A5

我々の規模とパワーという部分に関して言うと、なかなか直ぐにチャレンジできる状況にはありません。後手後手かも知れませんが市場の状況を見ながら確実性を持った開発をしていかないと、投資と回収のバランスの中で我々の事業母体も安定しなくなりますので、6号機が市場に出て、それがお客様からどのような評価を得られるのか注視していきたいと思えます。

以上

※ 本資料については、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、加筆・修正等を加え、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。